



一般財団法人キヤノン財団 第10期事業報告書

(平成29年1月1日から平成29年12月31日まで)



キヤノン財団
The Canon Foundation

第10期事業報告書 INDEX

当年概況:年間活動実績	01
当年概況:年間活動実績	02
研究助成事業概要	03
研究助成事業概要	04
「産業基盤の創生」プログラム概要・選考委員	05
「理想の追求」プログラム概要・選考委員	06
研究助成活動	
今年度募集・選考研究助成	07
第9回研究助成募集	08
「産業基盤の創生」の募集分野の細目	09
「産業基盤の創生」募集結果	10
「理想の追求」募集結果	11
選考結果	12
今年度採択研究助成	13
第8回研究助成	14
第8回研究助成金贈呈式	15
今年度終了研究助成	16
「産業基盤の創生」研究終了	17
第6回「産業基盤の創生」研究成果報告会 プログラム	18
「理想の追求」研究終了	19
第5回「理想の追求」シンポジウム プログラム	20
知財基礎教育・「理想の追求」食と腸内細菌ワークショップ	21
刊行物	22
広報活動	23
リユニオン	24
過去からの研究助成実績	25
第1回(平成22年)研究助成先	26
第2回(平成23年)研究助成先	27
第3回(平成24年)研究助成先	28
第4回(平成25年)研究助成先	29
第5回(平成26年)研究助成先	30
第6回(平成27年)研究助成先	31
第7回(平成28年)研究助成先	32
採択実績推移	33
会計報告	34
正味財産増減計算書	35
貸借対照表	36
キヤノン財団 概要	37
設立趣意	38
ビジョン/ミッション	39
財団概要	40
評議員・理事・監事 一覧	41

当年概況：年間活動実績

当年概況:年間活動実績

第10期(平成29年)年間活動実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
評議員会・理事会			▼ 第9期事業報告 第8回研究助成決定 ▼ 選考委員改選								▼ 第10期経過報告 第11期計画	
助成研究 対応				▼ 第8回贈呈式 ▼ 研究助成金出金 研究経過報告書、終了報告書、 会計報告書の受理								▼ リユニオン
助成研究 成果報告								▼ 第5回「理想」 シンポジウム	▼ 第6回「産業」 研究成果報告会			
募集～選考	▼ 「理想の追求」 課題発表		▼ 募集要項公開							▼ 一次選考会	▼ 二次選考会 (面接)	
												▼ 第9回研究助成 候補決定
広報 アウトリーチ				▼ 「理想」出版							▼ 「理想」出版	▼ 「産業」出版 (2巻)
									▼ 出版募集(次年度)			

研究助成事業概要

研究助成事業概要

研究助成事業概要

キヤノン財団は「人々の暮らしを支え、人間社会が将来も発展していく基盤である産業」の礎となる研究、人類の英知を深め持続的な繁栄を目指す研究に対して助成を行う。

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

日本の強い産業を更に強化する、あるいは新たな産業を興すことによって経済発展を促すような科学技術分野にあって、独創的、先駆的、萌芽的な研究を募集する。このような分野として、ICT・エレクトロニクス・ロボティクス、健康・医療・生命科学、バイオテクノロジー、環境・資源・エネルギー、マテリアル・デバイス・プロセス、サービスサイエンス(注)があげられる。また、社会的に複雑で難しい課題を解決するために、分野間の知的な触発や融合を図る挑戦的な新興・融合テーマなども対象として含める。日本の経済発展には地域の活性化が不可欠。キヤノン財団は特に地域の活性化に貢献する研究を重点的に支援する。地方に位置する大学等の研究を支援するとともに、中央に位置する大学等の研究であっても地域の活性化を目指す研究について支援する。

(注) 09ページの募集分野の細目表をご参照。

経済発展を促すような科学技術分野

ICT・エレクトロニクス・ロボティクス

健康・医療・生命科学

マテリアル・デバイス・プロセス

バイオテクノロジー

環境・資源・エネルギー

サービスサイエンス

研究助成プログラム「理想の追求」

このプログラムでは「Frontier、Welfare、Sustainability」の視点からキヤノン財団が毎年研究課題を提示する。この研究課題にグローバルな視点から挑戦する先駆的で独創性のある研究プロジェクトを募集する。2017年度の研究課題は昨年に引き続き「食に関する研究」。食に関する研究はいろいろな観点から、今見直されるべき時に来ている。本プログラムでは、次のような課題に向けて取り組む研究プロジェクトを助成の対象とする。

食に関する研究

飢餓と飽食

食の安全保障

第6次産業化

食の文化と健康、美味しさ

食の安全性と流通

「産業基盤の創生」プログラム概要・選考委員

「産業基盤の創生」プログラム概要

「人々の暮らしを支え、人間社会が将来も発展していく基盤である産業」の礎となる研究に対して助成する。日本の強い産業を更に強化する、あるいは新たな産業を起こすことによって経済発展を促すような科学技術分野にあって、独創的、先駆的、萌芽的な研究を募集する。また、地域の活性化に貢献する研究にも重点を置き、地方に位置する大学等の研究及び、中央に位置する大学等の研究で地域の活性化を目指す研究を支援する。

応募分野：

ICT・エレクトロニクス・ロボティクス、健康・医療・生命科学、バイオテクノロジー、環境・資源・エネルギー、マテリアル・デバイス・プロセス、サービスサイエンスなど

助成金額：

新規採択総額「理想の追求」と合わせ2～3億円、1件の上限1,500万円

研究期間：

1年または2年

2017年「産業基盤の創生」選考委員

(2017年4月1日現在、五十音順)

選考委員氏名	現職
委員長	長田 義仁 理化学研究所 基幹研究所 客員主管研究員、北海道大学名誉教授
副委員長	伊東 一良 大阪大学 国際環境生物工学寄附講座 招聘教授、大阪大学名誉教授
	片岡 一則 川崎市産業振興財団ナノ医療イノベーションセンター センター長 東京大学政策ビジョン研究センター 特任教授
委員	荒川 薫 明治大学 総合数理学部 教授
	安藤 功兒 産業技術総合研究所 名誉リサーチャー
	稲葉 雅幸 東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授
	大西 公平 慶應義塾大学 理工学部 教授
	岸田 晶夫 東京医科歯科大学 生体材料工学研究所 教授
	喜連川 優 国立情報学研究所 所長、東京大学 生産技術研究所 教授
	小長井 誠 東京都市大学 総合研究所 特任教授、東京工業大学名誉教授
	宝田 恭之 群馬大学 大学院理工学府 特任教授
	谷本 正幸 名古屋産業科学研究所 上席研究員、名古屋大学名誉教授
	中條 善樹 京都大学 大学院工学研究科 教授
	半田 宏 東京医科大学 ナノ粒子先端医学応用講座 特任教授、東京工業大学名誉教授
	深水 昭吉 筑波大学 大学院生命環境科学研究科 教授
	藤田 静雄 京都大学 大学院工学研究科 教授
	安岡 善文 千葉大学 環境リモートセンシング研究センター センター長、東京大学名誉教授
	山地 憲治 地球環境産業技術研究機構 理事・研究所長、東京大学名誉教授

「理想の追求」プログラム概要・選考委員

「理想の追求」プログラム概要

人類の英知を深め持続的な繁栄を目指す、科学技術を核とした総合的な研究プロジェクトに対して助成する。このプログラムでは「Frontier、Welfare、Sustainability」の視点から当財団が毎年研究課題を提示する。この研究課題にグローバルな視点から挑戦し、大きなイノベーションを起こすことが期待できる、先駆的で独創性のある研究プロジェクトを募集する。第8回研究課題は、第7回に引き続き「食に関する研究」とした。

「食に関する研究」の研究課題：

- (1) 飢餓と飽食 (2) 食の安全保障 (3) 第6次産業化 (4) 食の文化と健康、美味しさ
(5) 食の安全性と流通

応募条件：

- (1) グローバルな視点で、食に関わる本質的な課題を提案すること
(2) 研究プロジェクトは、異なる研究分野や異なる研究機関の国内外の研究者と協力して
科学技術を核とした異分野融合チームを組んでテーマに取り組むこと

助成金額：

新規採択総額「産業基盤の創生」と合わせ2～3億円、1件の上限3,000万円

研究期間：

原則3年

2017年「理想の追求」選考委員

(2017年4月1日現在、五十音順)

選考委員	氏名	現職
委員長	大垣 眞一郎	水道技術研究センター 理事長、東京大学名誉教授
	有本 建男	政策研究大学院大学 教授、JST-CRDS 副センター長
委員	黒川 清	政策研究大学院大学 客員教授、東京大学名誉教授
	所 眞理雄	(株)オープンシステムサイエンス研究所 代表取締役社長
	西澤 直子	石川県立大学 生物資源工学研究所 特任教授、東京大学名誉教授

研究助成活動
今年度募集・選考研究助成

第9回研究助成募集

(1)「産業基盤の創生」募集要項

前回は募集分野の表現を見直し、学術的分野から研究の出口を意識した表現に変え、また各募集分野の細目表も付けたことで、より分かりやすくなり、応募も急増したことから、今回もそれを踏襲することとし、細目表の一部の表現を見直す程度に留めた。

募集分野	
ICT・エレクトロニクス・ロボティクス	健康・医療・生命科学
バイオテクノロジー	環境・資源・エネルギー
マテリアル・デバイス・プロセス	サービスサイエンス

(2)「理想の追求」募集要項

今年度の「理想の追求」プログラムの研究課題は「食に関する研究」とした。前回は応募数も大きく伸びたことから、募集要項は前回のを踏襲し、必要に応じて微修正を行った。また募集課題についても、前回と同様に以下の5つを提示した。

- ① 飢餓と飽食
- ② 食の安全保障
- ③ 第6次産業化
- ④ 食の文化と健康、美味しさ
- ⑤ 食の安全性と流通

(3) 学会、公的研究機関への案内

従来からの学会、新規追加した学会に対し、学会誌・学会ホームページへの募集要項の掲載、学会会員への募集案内メール配信を依頼した。またJSTサイエンスポータル等へ募集案内の掲載を依頼した。依頼した機関数は、前回より3機関多い28機関となった。大学及び公的研究機関の助成担当窓口に対しては、当財団より募集案内のメールを配信した。配信先は170機関(対前回+14機関)となった。なお、過去に当財団に応募のあった全国の研究者に対しては、応募数も十分なレベルに達したことから、今回から案内を見合わせた。

「産業基盤の創生」募集分野の細目

募集分野の細目表

第9回募集要項の各分野に対して、下に示すような細目表を示し、募集分野をより明確化し、応募する研究内容を記載する申請書も、審査をより迅速に行えるような構成に再編した。

ICT・エレクトロニクス・ロボティクス

1. IoT
2. ビッグデータ
3. AI
4. デジタルメディア
5. ハードウェア・アーキテクチャ
6. ソフトウェア
7. HPCと計算科学
8. サイバーセキュリティ
9. ビジョン・言語・音声処理
10. ネットワーク
11. 情報学基礎
12. 知能ロボティクス
13. その他ITに関する技術。

また、エレクトロニクスとして以下も含めます。

14. 集積システム
15. 光システム
16. ストレージ
17. ディスプレイ
18. スマート機器・ウェアラブル
19. センサシステム

健康・医療・生命科学

1. 生体医工技術
2. 生体医工材料
3. 医療機器・技術
4. 再生医療
5. 生体計測・解析
6. 健康・医療情報・ゲノム情報
7. 生命科学基盤技術
(理論・解析技術、相互作用・構造予測等)
8. 食品機能・安全
9. ナノメディシン

マテリアル・デバイス・プロセス

1. 新しい物質・材料・機能の創成
2. アドバンスドマニュファクチャリング
3. 先端材料・デバイスの計測・解析手法
4. 応用デバイス・システム
(ICT、ナノテク、環境、エネルギー、インフラ)

バイオテクノロジー

1. ゲノム編集
2. ゲノム解析
3. 遺伝子組み換え
4. 細胞融合
5. タンパク工学(解析・合成・修飾)
6. バイオインフォマティクス
7. ナノバイオテクノロジー
8. バイオエネルギー
9. バイオケミカルズ
10. バイオリアクター
11. バイオレメディエーション

環境・資源・エネルギー

1. エネルギー生産
2. エネルギー消費
3. エネルギー流通・変換・貯蔵・輸送
4. 資源
5. リユース・リサイクル
6. 水
7. 地球温暖化
8. 環境保全
9. 環境解析・予測
10. 環境創成
11. リスクマネジメント
12. リモートセンシング

サービスサイエンス

1. 経営・政策
2. 知識マネジメント
3. 製品サービスシステム(PSS)
4. 社会設計・シミュレーション
5. サービスマネジメント
6. サービスオペレーション
7. サービスマーケティング
8. サービスデザイン
9. サービス工学
10. サービスロボット
11. サービス理論

「産業基盤の創生」募集結果

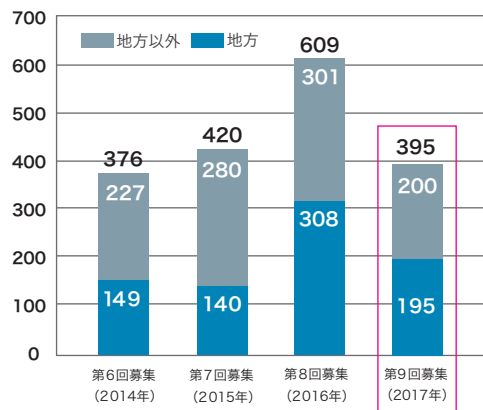
(1) 募集の結果

第9回「産業基盤の創生」募集の結果は以下の通りであった。

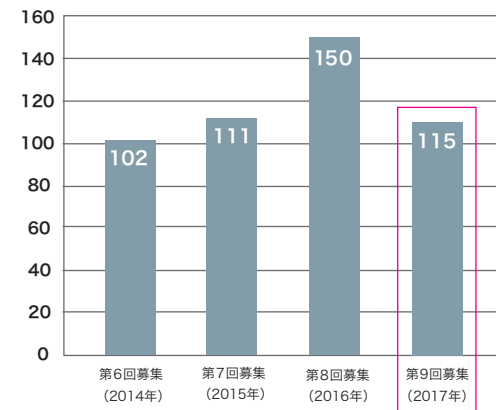
- 応募総数：395件（第8回609件）その内、地方大学・高専の応募：195件（49%）
- 応募機関数：114機関（第8回150機関）
- 申請者の平均年齢：47.2歳（第8回46.8歳）

(2) 第6回から第9回応募の推移

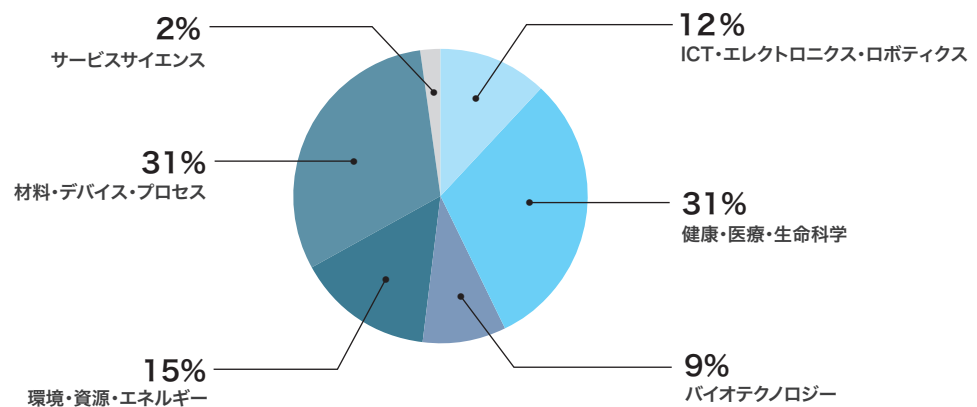
件数 「産業基盤の創生」応募件数の推移



機関数 「産業基盤の創生」応募機関数の推移



応募分野別比率



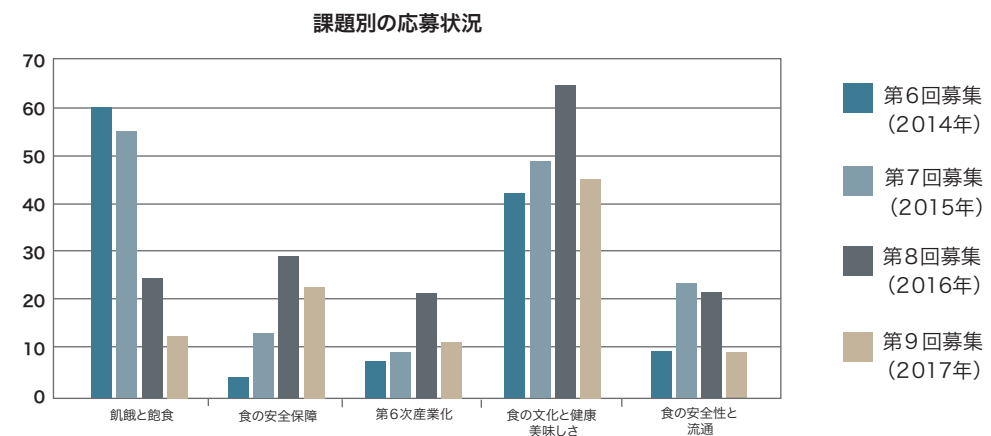
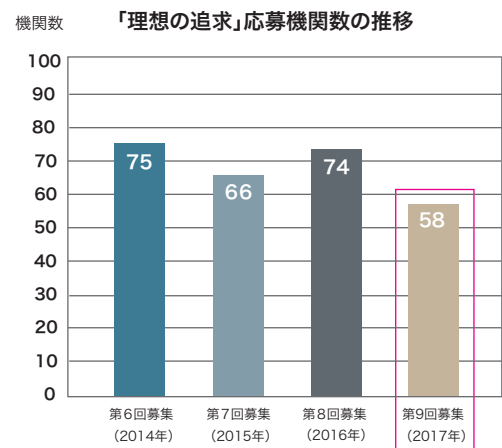
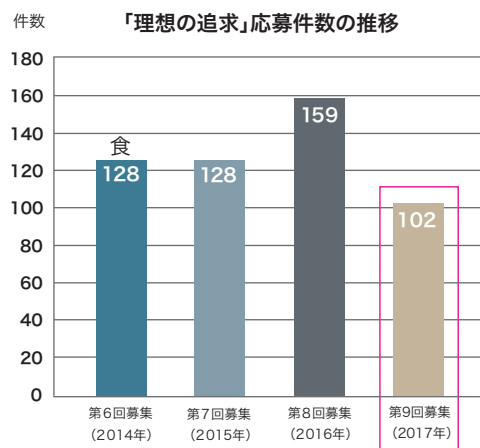
「理想の追求」募集結果

(1) 募集の結果

第9回「理想の追求」募集の結果は以下の通りであった。

- 応募総数：102件（第8回159件）
- 応募機関数：58機関（第8回74機関）
- 申請者の平均年齢：48.8歳（第8回49.1歳）

(2) 第6回から第9回応募の推移



選考結果

(1)選考結果

応募締め切り後、書面審査、一次選考会、二次選考会を経て助成候補が決定した。助成候補については、選考結果報告書を作成し、平成29年12月に理事長に提出した。最終決定は平成30年3月の理事会の決議による。

「産業基盤の創生」

- 助成候補件数：14件(助成総額1億8,500万円)、うち地方および地域活性化件：4件
- 助成候補者平均年齢：44.9歳(前回44.9歳、前々回44.3歳)

「理想の追求」

- 助成候補件数：4件(助成総額9,000万円)
- 「助成候補者平均年齢：45.5歳(前回46.0歳、前々回43.0歳)

研究助成活動

今年度採択研究助成

第8回研究助成

第8回研究助成の決定

平成29年3月15日の理事会において、選考委員会より提出された第8回研究助成候補が原案通り承認され、研究助成先が決定した。

- 「産業基盤の創生」研究助成プログラム 12件(総額1億6,000万円)
- 「理想の追求」研究助成プログラム 3件(総額8,000万円)

第8回「産業基盤の創生」研究助成

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関 職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 鐘巻 将人	国立遺伝学研究所 教授	幹細胞における迅速なタンパク質発現制御技術の開発	1,500
2. 川井 清彦	大阪大学 准教授	RNA1分子検出による癌の遺伝子点突然変異診断 (注)	300 (1,100)
3. 黒岩 敬太	崇城大学 教授	トマト由来ステロイドアルカロイド配糖体によるプローブ材料開発	1,500
4. 小暮 健太郎	徳島大学 教授	微弱電流薬物送達システムによる体内臓器への核酸医薬新規送達法	1,000
5. 高橋 淳子	産業技術総合研究所 主任研究員	次世代がん治療を実現する「放射線力学療法」の基盤研究	1,500
6. 竹井 敏	富山県立大学 准教授	ガス透過性金型を用いる医薬品材料のナノインプリント加工技術	1,500
7. 秩父 重英	東北大学 教授	ヘリコン波プラズマエピタキシー開発とポラリトンレーザ構造形成	1,500
8. 津田 明彦	神戸大学 准教授	音響配向エレクトロクロミックナノファイバーの創製	1,100
9. 檢垣 匠	東京大学 特任准教授	高CO2固定植物の作出に向けた気孔エンジニアリング技術の創出	1,300
10. 船津 高志	東京大学 教授	マイクロ液滴を利用した有用な機能性生体分子の探索・創製	1,500
11. 馬渡 和真	東京大学 准教授	単一細胞エピゲノム解析のための基盤技術創成	1,500
12. 湯浅 裕美	九州大学 教授	次世代MRAMへ向けた反平行磁化配列層のスピントルク発振実証	1,000

(注)ESとして採択したテーマ。助成金のカッコ内は、追加助成が認められた場合の総額を示す。

第8回研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関 職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 植松 智	千葉大学 教授	日本人と欧米人の腸内細菌叢比較とプロバイオティクス効果の解析	3,000
2. 加藤 清明	帯広畜産大学 教授	食物アレルギーを幅広く軽減するコメの研究	2,000
3. 小早川 高	関西医科大学 学長特命准教授	先天的恐怖活用技術の開発によるげっ歯類からの食害防止	3,000

第8回研究助成金贈呈式

第8回研究助成金贈呈式

平成29年4月18日(火)、東京都千代田区の経団連会館において、「第8回(平成29年)研究助成金贈呈式」および懇親会が開催された。贈呈式には、今回受領する助成研究者、助成研究者関係者、評議員、理事、監事、選考委員、招待者、キヤノン関係者等合わせて93名が参加した。贈呈式では、はじめに御手洗富士夫評議員会議長にお祝いの挨拶をいただいた。その中で御手洗議長は、「我々の生活は、様々な科学技術の進歩によって、大変に豊かなものになりました。しかしその一方で環境問題、異常気象問題、感染症問題など、国や地域の境界を越えた人類共通の深刻な課題にも直面しています。科学技術に関わる研究者の皆様には、この地球・人類の諸問題を解決するため、幅広く叡智を結集して大きなイノベーションにチャレンジしていただきたいと願っています。キヤノン財団はそんな皆様の研究に対し大いに支援を行なって参りたいと思います。」と研究者を激励した。続いて生駒理事長より応募数推移、アウトリーチ活動の一つである出版等の財団活動の紹介がされた。その後、研究助成プログラム「理想の追求」選考委員長・大垣眞一郎先生および「産業基盤の創生」選考委員長・長田義仁先生から選考講評と助成研究者への励ましの言葉が述べられた。選考委員長講評後、贈呈証の授与に移り、15名の助成研究者全員に御手洗議長から贈呈証が直接手渡され、一人一人握手の上、研究者との記念撮影を行なった。助成研究者を代表して千葉大学 植松教授と九州大学 湯浅教授から研究への抱負が述べられた。贈呈証授与後、理化学研究所 特別招聘研究員の辨野義巳氏より「"長寿菌"がいのちを守る! ~大切な腸内環境コントロール~」と題し、健康長寿者の生活習慣、長寿菌を増やす生活等についての講演を行なっていただいた。最後に議長、理事長、選考委員長と今回の助成研究者全員の集合記念撮影をもって閉式した。



研究助成活動

今年度終了研究助成

「産業基盤の創生」研究終了

第6回「産業基盤の創生」研究終了について

平成27年3月にスタートした第6回「産業基盤の創生」助成研究は平成29年3月に2年間の研究期間を終了した。また第5回「産業基盤の創生」助成研究のうち、研究延長していた2件が研究期間を終了した。これら11件の研究テーマについて報告書が提出され、それらを冊子にまとめると共に、当財団ホームページに掲載した。

第6回「産業基盤の創生」研究成果報告会の開催

平成29年8月8日(火)、CGMIにおいて、第6回「産業基盤の創生」研究成果報告、および懇親会を開催した。当日のプログラムを次ページに示す。報告会・懇親会には、助成研究者及び関係者、理事長、選考委員、キヤノン関係者等合わせて68名が参加した。報告会は、生駒理事長の挨拶の後、助成研究テーマ11件の成果報告を行なった。前期に続き、選考委員の先生方による座長制での進行としたことにより、選考委員をはじめ、多くの出席者から質問・意見が出され、活発な議論が行なわれた。最後に長田義仁選考委員長の全体講評で締めくくった。

第6回「産業基盤の創生」研究成果報告会 プログラム

日時:平成29年8月8日(火)12:45～

場所:キヤノン グローバル マネジメント インスティテュート (CGMI)

【開会挨拶】 生駒 俊明 / 一般財団法人キヤノン財団 理事長

セッション1 医工連携研究における最新技術 座長 / 半田 宏(東京医科大学)

1. RNAナノテクノロジーを活用した細胞運命の人為的制御法の開発 齊藤 博英(京都大学)
2. がん治療を目的としたinchworm型人工核酸の創成と応用 櫻井 敏彦(鳥取大学)
3. 糖応答性高分子ゲルによるインテリジェント型人工膵臓の開発 松元 亮(東京医科歯科大学)
4. 非観血無侵襲の超迅速センチネルリンパ節生検システムの開発 山口 匡(千葉大学)

セッション2 ナノテクノロジーが牽引する機能材料 座長 / 小長井 誠(東京都市大学)

5. 自己修復型伸縮配線を用いたフレキシブルデバイスシート 岩瀬 英治(早稲田大学)
6. 延伸技術と燃糸技術の融合による超高強度繊維の創製 上原 宏樹(群馬大学)
7. 汎用樹脂とシリカ微粒子からなる高プロトン伝導セパレータの創製 有田 稔彦(東北大学)

セッション3 材料・プロセス技術を用いた機能素子 座長 / 安藤功兒(産業技術総合研究所)

8. 林地内走破型伐倒マニピュレータシステムの開発 白井 裕子(慶應義塾大学)
9. 単一分子をテラヘルツ電磁波で見る技術の開拓 平川 一彦(東京大学)
10. ナノ/マイクロ構造の超高速光集積・検出システムの開発 飯田 琢也(大阪府立大学)
11. グラフェンバレートロニクスデバイスの創製 山本 倫久(東京大学)

【選考委員長講評】 長田 義仁 / 理化学研究所 客員主管研究員



「理想の追求」研究終了

第4回、第5回「理想の追求」研究終了について

平成26年4月にスタートした第5回「理想の追求」助成研究4件のうち3件、及び第4回「理想の追求」での期間延長テーマ2件は、平成29年3月にそれぞれの研究期間を終了した。これら5件を報告書にまとめ、第5回「理想の追求」シンポジウムで参加者に配布するとともに、当財団ホームページに掲載した。

第5回「理想の追求」シンポジウムの開催

平成29年7月28日(金)、東京目黒区のキャノングローバルマネジメントインスティテュート(CGMI)において、第5回「理想の追求」シンポジウムおよび懇親会を開催した。シンポジウムには、第4回～第8回助成研究者、その共同研究者、理事長及び理事、選考委員、キャノン関係者等合わせて66名が参加した。当日のプログラムは次ページの通りである。生駒理事長の挨拶の後、「海に関する研究」をテーマにした第4回、第5回助成研究5件の研究成果報告を行った。今回をもって第1回から第5回までのテーマとなった「海に関する研究」については、一つの区切りを迎えたため、九州工業大学の浦特別教授から「海に関する研究」の全体の総括が行われた。その後第7回4件の研究中間報告が行われ、第6回・第8回助成研究者は、現在進行中の研究をポスターセッションで発表した。シンポジウム全体を通じて、選考委員はじめ多くの出席者からの質問・意見と共に、活発な議論が交わされ、大垣選考委員長からの全体講評で報告会を締めくくった。引き続き行なわれた懇親会では、所選考委員に乾杯のご発声をいただき、有意義な交流の場とすることができた。

第5回「理想の追求」シンポジウム プログラム

日時:平成29年7月28日(金)12:45～
場所:キヤノン グローバル マネジメント インスティテュート(CGMI)

【開会挨拶】生駒 俊明 / 一般財団法人キヤノン財団 理事長

第I部 研究成果報告【海に関する研究(第4回、第5回)】

1. 太古、生命はどんな光を見たか 岩崎 渉 (東京大学)
 2. 気候変動の鍵を握る南極の海 田村岳史 (国立極地研究所)
 3. 海洋を漂うプラスミドDNAが生物進化に与える影響 西田洋巳 (富山県立大学)
 4. 海洋4次元地図帳:モデリングと可視化のニューフロンティア 升本順夫 (東京大学)
 5. ウイルスは海洋生物多様性を創生・維持する素粒子か? 吉田天士 (京都大学)
- ～「海に関する研究」5年間の総括 ～ 浦 環 (九州工業大学)

第II部 研究中間報告【食に関する研究(第7回)】

6. 食糧問題軽減を目指したイネの分子育種と特性評価 芦荊基行 (名古屋大学)
7. 食品成分の腸内細菌変換による健康増進効果の遺伝学的解析 栗原 新 (石川県立大学)
8. 牛肉生産システムの大構造改革:科学と国土をフル活用した大革新 後藤貴文 (鹿児島大学)
9. フロリゲンを活用して地球温暖化に強い作物を創るための基礎研究 辻 寛之 (横浜市立大学)

第III部 研究経過報告(ポスター報告)【第5回、第6回、第8回】

- 北の海に未知なる生命と生物多様性を探る 荒木仁志 (北海道大学)
- 揮発性物質による植物間情報伝達と早期病害ストレス検出基盤構築 木下奈都子 (筑波大学)
- 伝統発酵食品の腸管免疫制御および腸・脳相関に関する研究 辻 典子 (産業技術総合研究所)
- 伝統的日本食を基盤とした健康維持に有効な食事「日本食」の確立 都築 毅 (東北大学)
- 日本人と欧米人の腸内細菌叢比較とプロバイオティクス効果の解析 植松 智 (千葉大学)
- 食物アレルギーを幅広く軽減する米の研究 加藤清明 (帯広畜産大学)
- 先天的恐怖活用技術の開発によるげっ歯類からの食害防止 小早川 高 (関西医科大学)

【選考委員長講評】大垣 眞一郎 / 公益財団法人水道技術研究センター 理事長



知財基礎教育

特に「産業基盤の創生」では、知財活動には密接に関わる研究も多いはずであるが、採択された研究者の約1/3は、知財活動をあまりしていない実態があること、また特許維持費等の問題から、知財活動・教育には積極的な取り組みをしていない大学も見受けられることから、キャノンの強みを活かした知財分野での基礎教育を実施することとし、今期第1回目を実施した。結果は好評であり、来期以降も内容見直しを行いつつ、継続することとした。知財教育を実施している財団の例はほとんど聞かないため、キャノン財団の特徴的な活動になっている。

実施日	平成29年3月23日(木)午後半日
受講者	16名(助成先研究者、共同研究者)
講師	キャノン(株)知財本部、キャノン技術情報サービス(株)
内容	知財の基礎(産学連携でのポイント含む)、第三者特許調査基礎

「理想の追求」食と腸内細菌ワークショップ

平成29年3月の理事会にて、「理想の追求」で採択している以下のテーマが、「食と腸内細菌」というグループを形成しつつあることを報告した。

- ①伝統発酵食品の腸管免疫制御および腸-脳相関に関する研究(産総研:辻先生)
- ②伝統的日本食を基盤とした健康維持に有効な食事「日本食」の確立(東北大:都築先生)
- ③食品成分の腸内細菌変換による健康増進効果の遺伝学的解析(石川県立大:栗原先生)
- ④日本人と欧米人の腸内細菌叢比較とプロバイオティクス効果の解析(千葉大:植松先生)
- ⑤食物アレルギーを幅広く軽減する米の研究(帯広畜産大学:加藤先生)

日本では、「疾患と腸内細菌」については、AMED-CREST等国の研究プログラムが走っているが、「食と腸内細菌」に関する研究は、国としてもこれからという段階となっていることから、キャノン財団として、「食と腸内細菌」を重点的に支援し、この領域の研究発展の先鞭をつけること、及びそのために以下の活動を行うことが平成29年3月の理事会にて承認された。

- (a) プロジェクトマネージャになりえる研究者を見出す。
- (b) 公募だけではカバーできない研究領域に対する研究助成活動。
- (c) 既に採択された研究も含め、プロジェクトマネージャを中心に全体としてまとまりのあるより高いレベルの研究群に導く。

この計画に基づき、「食と腸内細菌」関連で採択された研究者やその他有識者から候補者を挙げてもらい、その中からプロジェクトマネージャとして、國澤純先生(国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所プロジェクトリーダー)をアサインした。國澤先生は、健康人を対象とした遺伝子、腸内細菌、生活習慣、生理指標等からなる独自のデータベースと、それらの相関関係を解析するシステムを持ち、食事-腸内細菌叢 - 疾患発症のメカニズム解明を目指しており、エビデンスに基づいた「食と腸内細菌」の研究に大きく寄与している。國澤先生を中心に「食と腸内細菌」に関わる採択済み研究者を集め、ワークショップ形式に活動を継続中であり、またこの活動を行うために、國澤先生に500万円の研究助成を行っている。

刊行物

(1) キヤノン財団ライブラリ第3巻

書名 深き海の魚たち 資源開拓と有効利用に向けて

著者 落合 芳博(東北大学)

発行 平成29年4月20日

内容 深海魚の特徴、生態から、漁業の実態、国内外での事情、有効利用の現状と将来展望



(2) キヤノン財団ライブラリ第4巻

書名 「食」の研究 これからの重要課題

著者 伊藤 武、河合 利光、小林 茂典、西澤 直子、安田 和男、山下 一仁

編著者 生駒 俊明

発行 平成29年10月15日

内容 理想の追求で「食」を取り上げた主旨を説明する著書として、5つの課題(飢餓と飽食等)について、それぞれ専門の先生が解説



(3) キヤノン財団ライブラリ第5巻

書名 カーボンが創る未来社会 一種類の元素の様々な構造に支えられて

著者 安坂 幸師、他10名

編著者 藤田 静雄

発行 平成29年11月15日

内容 カーボンの最先端の研究動向を環境、暮らし、産業の観点から解説



(4) キヤノン財団ライブラリ第6巻

書名 ナノテクノロジーが拓く未来の医療

著者 浅沼 浩之、他13名

編著者 片岡 一則

発行 平成29年12月25日

内容 ナノテクノロジーに立脚した次世代医療技術を解説



(1) ホームページ刷新

キヤノン財団の活動をより詳しく情報発信するために、平成28年末にホームページのリニューアルを行い、今期コンテンツを充実させた。新たに発信した情報は以下となる。

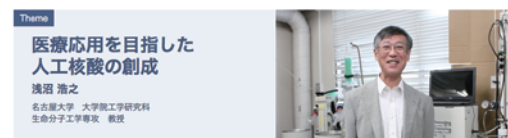
① キヤノン財団事業報告書

第9期のキヤノン財団の事業活動として、研究助成プログラムの概要、選考委員、研究助成活動(募集、応募状況、選考過程等)、贈呈式「理想の追求」シンポジウム、「産業基盤の創生」研究成果報告会等について、詳細に報告した。事業報告書を対外的に公開したのは、今期が初めてとなる

② 助成先日より

助成研究の概要、研究のその後の発展状況、研究者になろうと思ったきっかけ、助成期間を通じた感想、今後の夢などについて、助成先研究者へのインタビューをもとに制作した。現時点で4名へのインタビューが終わり、ホームページに掲載されている。

- 高井 研 先生(海洋研究開発機構) 「理想の追求」第3回採択
- 韓 立彪 先生(産業技術総合研究所) 「産業基盤の創生」第2回採択
- 浅沼 浩之 先生(名古屋大学) 「産業基盤の創生」第3回採択
- 西村 智 先生(自治医科大学) 「産業基盤の創生」第5回採択



(2) 地方メディアの活用

助成先研究が、地方新聞等の地方メディアに取り上げてもらう活動を、前期から開始しているが、この活動を今期も継続している。今までの掲載実績を以下に示す。

- | | | | |
|-------------|--------------------|--------|------------|
| ● 高知工科大学 | 王先生(産業基盤の創生 第4回) | 高知新聞 | 平成29.2.3 |
| ● 岐阜薬科大学 | 佐治木先生(産業基盤の創生 第2回) | 読売新聞 | 平成29.3.15 |
| ● 北海道大学 | 西岡先生(理想の追求 第3回) | 釧路新聞 | 平成29.3.28 |
| ● 富山県立大学 | 西田先生(理想の追求 第5回) | 北日本新聞 | 平成29.7.26 |
| ● 産業技術総合研究所 | 韓 立彪(産業基盤の創生 第2回) | 化学工業日報 | 平成29.12. |
| ● 宇都宮大学 | 東口先生(産業基盤の創生 第2回) | 下野新聞 | 平成29.12.17 |

リュニオン

(1) リュニオン趣旨

今までに採択された研究者の数は、共同研究者を含めると2つの研究助成プログラムを合わせて、300人を超える規模になっている。この研究者の集まりは、学会の枠を超えた多くの分野に渡り、キャノン財団の大きな財産となっている。この財産を有意義に活用する場として、今期より「リュニオン」を開始することとした。この活動によって研究者、選考委員の交流が図られ、将来的に異分野融合研究が生まれることなどを期待している。

(2) 開催

第一回目となる今回は、「リュニオン2017 科学・技術とイノベーション」と題し、キャノン財団の設立記念日である12月1日に、新丸ビルコンファレンススクエアで開催した。当日は、キャノン財団理事、選考委員、助成先研究者、その他関係者を含め、総勢105名と大変多くの方々に出席をいただき、また遠方からも多くの研究者が駆けつけた。

講演：「科学・技術における研究開発とイノベーション」
講演者：東京大学名誉教授 生駒 俊明
モデレータ：「産業基盤の創生」選考委員長 長田 義仁

生駒理事長からは、科学研究、研究テーマの選び方、研究の評価、技術開発、イノベーション等について講演がされ、出席者との間で活発な質疑応答や議論が交わされた。



過去からの研究助成実績

第1回(平成22年)研究助成先

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 安坂 幸師	名古屋大学/助教	中空多層フラーレンの光・電子デバイスの開発	1,900
2. 市浦 英明	高知大学/准教授	界面重合反応を活用した新しいナノカプセル・ナノファイバー・ナノ多孔合成法とその特徴を有するシート状素材の開発	1,000
3. 岡田 健一	東京工業大学/准教授	CMOS技術を用いたミリ波帯超高速スケーラブル無線回路技術の研究	1,200
4. 金子 真	大阪大学/教授	マイクロ液滴によるダイナミックアクティブセンシング	1,500
5. 河野 行雄	理化学研究所/専任研究員	固体ワンチップによる広帯域テラヘルツ分光器の開発	1,700
6. 栗原 正人	山形大学/准教授	100°Cの壁を越える低温焼結性銀超微粒子の高効率・簡便製造と基材適合性	1,200
7. 黒田 俊一	名古屋大学/教授	ナノメディシンの生体内ピンポイント送達を可能にするヒト由来ウイルス外皮タンパク質コーティング技術の開発	2,000
8. 小池 英樹	電気通信大学/教授	デジタルスポーツ創生のための基礎研究	1,500
9. 佐々木 健夫	東京理科大学/准教授	光誘起電界による分子運動の変調に基づく動的ホログラムの形成	1,000
10. 祖山 均	東北大学/教授	流動キャビテーションによるラジカルの制御	2,000
11. 中村 龍平	東京大学/助教	自然共生型の高効率光エネルギー変換システムの構築	2,000
12. 松尾 吉晃	兵庫県立大学/准教授	水素貯蔵用シルセスキオキサン架橋型ピラー化炭素の創生	1,000
13. 森田 靖	大阪大学/准教授	有機分子を活物質に用いた革新的高性能二次電池の開発	2,000

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 岩淵 聡文	東京海洋大学/教授	水中文化遺産研究への海洋工学の応用	2,000
2. 北野 宏明	特定非営利活動法人 システム・バイオロジー研究機構/会長	サンゴ-共生藻におけるロバストネス・トレードオフと気候変動	5,000
3. 佐藤 克文	東京大学/准教授	動物目線による海洋環境モニタリング	3,000

第2回(平成23年)研究助成先

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 安東秀	東北大学/助教	走査ナノダイヤモンド磁気検出器プローブによる単一スピン検出	1,500
2. 今里浩子	一般財団法人ファジィシステム研究所 /主任研究員	誘電泳動現象を用いた白血病細胞の分離・同定	1,700
3. 小椋俊彦	産業技術総合研究所/主任研究員	高分解能三次元リアルタイム軟X線顕微鏡の開発	1,700
4. 韓立彪	産業技術総合研究所/グループ長	革新的有機ヘテロ原子機能材料の創製	1,900
5. 佐治木弘尚	岐阜薬科大学/教授	機械エネルギーで水から水素を製造する次世代エネルギーシステム	2,000
6. 庄司暁	大阪大学/助教	2光子加工法を駆使したナノ領域でのポリマーの力学特性の解明	1,100
7. 田邊孝純	慶應義塾大学/専任講師	微小光共振器による位相制御された光周波数コム光源の開発	1,500
8. 東口武史	宇都宮大学/准教授	次々世代半導体リソグラフィー用波長6.7nm極端紫外光源の開発	1,900
9. 細谷浩史	広島大学/教授	ミドリゾウリムシ共生藻が産生する糖類の利用に関する研究	2,000
10. 村越敬	北海道大学/教授	電子移動機能アトムサイトの室温構造制御	1,500
11. 森川浩安	大阪市立大学/講師	超音波速度の温度依存性を利用した内臓脂肪診断装置の開発	1,700
12. 吉原利忠	群馬大学/助教	低酸素病態イメージングのための高機能りん光プローブ分子の開発	1,500

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 桑田晃	水産総合研究センター/主任研究員	未知の藻類:パルマ藻が解き明かす海洋を支える珪藻の進化	2,800
2. 杉松治美	東京大学/特任研究員	アジア域に棲息する小型歯クジラ類のリアルタイム音響観測ネットワークの構築	2,800
3. 眞部広紀	佐世保工業高等専門学校/准教授	陸海域カルスト水文系の追跡によるロボット探査とマッピング	600
4. 御手洗哲司	沖縄科学技術研究基盤整備機構 /若手代表研究者	深海底熱水噴出域の幼生輸送と生物群集変動	3,800

第3回(平成24年)研究助成先

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 浅沼 浩之	名古屋大学/教授	医療応用を目指した人工核酸の創成	2,000
2. 味岡 逸樹	東京医科歯科大学/准教授	ニューラルネットワークモデル検証のための神経細胞三次元培養	1,600
3. 内山 潔	鶴岡工業高等専門学校/教授	プロトン伝導性酸化物薄膜の高性能化とその燃料電池応用	1,100
4. 奥野 貴士	山形大学/准教授	細胞膜タンパク質機能の高感度イメージング解析技術の開発	1,400
5. 尾崎 信彦	和歌山大学/准教授	多色量子ドットによる近赤外広帯域光源開発と医療OCTへの応用	1,200
6. 角田 直人	首都大学東京/准教授	近赤外分光法に基づく顕微領域の温度・水分同時イメージング法の開発	1,500
7. 岸本 昭	岡山大学/教授	高信頼性耐火物への制御した気孔導入が可能な超塑性発泡法の開発	1,600
8. 戸川 望	早稲田大学/教授	グリーンITを実現する超低電力化フラットLSI自動設計技術の創生	1,600
9. 則包 恭央	産業技術総合研究所 /主任研究員	光で溶ける有機材料—再生可能な感光性有機材料の基盤技術の創出	2,000
10. 松村 和明	北陸先端科学技術大学院大学 /准教授	両性電解質高分子を利用した高次細胞構造体の凍結保存技術の開発	1,300
11. 守友 浩	筑波大学/教授	ネットワークポリマーを用いた『カラー電池』の開発	1,300
12. 山本 希美子	東京大学/講師	先進分子イメージングによる血管の血流感知機構の解明	2,000
13. 渡部 平司	大阪大学/教授	界面制御に基づく超低消費電力半導体ナノエレクトロニクスの創成	1,400

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 落合 芳博	東海大学/教授	深海魚類資源の網羅的開拓	1,000
2. 桑江 朝比呂	港湾空港技術研究所 /チームリーダー	都市型ブルーカーボン:新たな沿岸海域炭素循環像の構築	1,000
3. 高井 研	海洋研究開発機構 /プログラムディレクター	「沖繩の深海に超巨大海底熱水鉱床を探索」	5,000
4. 西岡 純	北海道大学/准教授	凍る海の豊かな生態系を生み出す機構の解明	3,000

第4回(平成25年)研究助成先

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 有澤 光弘	北海道大学/准教授	機能性分子合成用希少元素削減・代替型ナノパーティクル触媒の開発	1,200
2. 伊藤 公平	慶應義塾大学/教授	ダイヤモンドによる単一プロトン核スピン磁気共鳴センシング	1,800
3. 伊藤 嘉浩	理化学研究所/主任研究員	化学拡張進化分子工学による蛍光センサー分子の構築原理の実証	1,500
4. 王 碩玉	高知工科大学/教授	自立高齢者生活支援のためのインテリジェント・ロボットの開発	1,600
5. 大道 英二	神戸大学/准教授	テラヘルツ磁気共鳴力顕微鏡を用いた生体分子の高分解能スペクトロスコピー	1,500
6. 木村 崇	九州大学/教授	スピン吸収効果を用いた極微細スピンクーリングデバイスの開発	1,000
7. 萩原 伸也	名古屋大学/特任准教授	翻訳段階で遺伝情報を変換する新規遺伝子治療法の創生	1,000
8. 林 隆介	産業技術総合研究所/研究員	脳神経情報に基づく視覚体験の可視化技術の開発	1,300
9. 平山 朋子	同志社大学/准教授	超低摩擦摺動メカニズム解明のための新規固液界面分析装置の開発	1,500
10. 福田 弘和	大阪府立大学/准教授	植物工場における超高速環境パラメータ最適化手法の開発	1,700
11. 松田 一成	京都大学/教授	革新的光電変換機能をもつオールナノカーボン太陽電池の開発	1,700
12. 宮元 展義	福岡工業大学/准教授	層状ベロプスカイトに基づく機能性無機ナノシート液晶の開発	1,800
13. 村田 昌之	東京大学/教授	細胞質交換法を用いた「病態モデル細胞」創成と解析技術の開発	1,800

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 井上 麻夕里	東京大学/助教	環境を記録する造礁サンゴの骨格成長メカニズムの解明	4,000
2. 岩崎 渉	東京大学/講師	太古、生命はどんな光を見たか	3,000
3. 田村 岳史	国立極地研究所/助教	気候変動の鍵を握る南極の海	3,000

第5回(平成26年)研究助成先

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 大森 雅登	豊田工業大学/嘱託研究員	半導体ナノ細線フォトトランジスタを用いた単一光子検出器の開発	1,600
2. 加藤 雄一郎	東京大学/准教授	カーボンナノチューブ単一光子源	1,400
3. 式田 光宏	広島市立大学/教授	肺内部でのその場計測を可能にするカテーテルセンサの開発	1,100
4. 白井 裕子	早稲田大学/准教授	林地内走破型伐倒マニピュレータシステムの開発	1,100
5. 竹岡 敬和	名古屋大学/准教授	白い粒子と黒い粒子から得られる様々な色の顔料の調製	1,800
6. 生津 資大	兵庫県立大学/准教授	近未来型低侵襲癌治療のための瞬間発熱ナノ粒子の実現	2,000
7. 新倉 謙一	北海道大学/准教授	高活性ワクチンアジュバントのためのハイブリッドナノ粒子開発	1,810
8. 西村 智	自治医科大学/教授	ゆらぐ生命現象の可視化デバイスの開発	2,000
9. 根岸 雄一	東京理科大学/准教授	低コスト燃料電池を実現する高活性白金触媒の精密合成法の開発	1,400
10. 平川 一彦	東京大学/教授	単一分子をテラヘルツ電磁波で見る技術の開拓	1,700
11. 松浦 和則	鳥取大学/教授	環境応答性人工ウイルスキャプシドの創製	1,700
12. 安井 武史	徳島大学/教授	非線形ギャップレス光コム分光法の開発と呼気診断への応用	1,140
13. 山内 悠輔	物質・材料研究機構/主任研究員	電解析法による新規ナノポーラス白金電極の開発	1,850

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 荒木 仁志	北海道大学/教授	北の海に未知なる生命と生物多様性を探る	2,000
2. 西田 洋巳	富山県立大学/教授	海洋を漂うプラスミドDNAが生物進化に与える影響	2,000
3. 升本 順夫	東京大学/教授	海洋4次元地図帳:モデリングと可視化のニューフロンティア	3,000
4. 吉田 天士	京都大学/准教授	ウイルスは海洋生物多様性を創生・維持する素粒子か?	3,000

第6回(平成27年)研究助成先

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 阿部 洋	名古屋大学/教授	蛋白質の高効率生産法の開発	2,000
2. 有田 稔彦	東北大学/助教	汎用樹脂とシリカ微粒子からなる高プロトン伝導セパレータの創製	1,300
3. 飯田 琢也	大阪府立大学/准教授	ナノ/マイクロ構造の超高速光集積・検出システムの開発	1,600
4. 岩倉 いずみ	神奈川大学/准教授	アミノ酸誘導体による希土類錯体の合成:同時多色発光材料の設計	2,000
5. 岩瀬 英治	早稲田大学/准教授	自己修復型伸縮配線を用いたフレキシブルデバイスシート	1,000
6. 上原 宏樹	群馬大学/准教授	延伸技術と燃糸技術の融合による超高強度繊維の創製	1,800
7. 齊藤 博英	京都大学/准教授	RNAナノテクノロジーを活用した細胞運命の人為的制御法の開発	1,000
8. 櫻井 敏彦	鳥取大学/准教授	がん治療を目的としたinchworm型人工核酸の創成と応用	1,600
9. 富永 依里子	広島大学/助教	海洋光合成細菌にIII-V族半導体結晶を成長させる技術の開拓	1,900
10. 松元 亮	東京医科歯科大学/准教授	糖応答性高分子ゲルによるインテリジェント型人工臓腑の開発	2,000
11. 山口 匡	千葉大学/教授	非観血無侵襲の超迅速センチネルリンパ節生検システムの開発	1,900
12. 山本 倫久	東京大学/講師	グラフェンバレートロンクスデバイスの創製	1,900

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 木下 奈都子	筑波大学/助教	揮発性物質による植物間情報伝達と早期病害ストレス検出基盤構築	1,500
2. 辻 典子	産業技術総合研究所/チーム長	伝統発酵食品の腸管免疫制御および腸-脳相関に関する研究	3,000
3. 都築 毅	東北大学/准教授	伝統的日本食を基盤とした健康維持に有効な食事「日本食」の確立	3,000

第7回(平成28年)研究助成

研究助成プログラム「産業基盤の創生」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 岩崎 崇	鳥取大学 農学部 /助教	ポリヒスチジンを利用した次世代育種基盤技術の創生	1,500
2. 小西 毅	大阪大学 大学院工学研究科 /准教授	量子揺らぎ制御に基づく高性能アナログ-デジタル変換の研究	1,500
3. 佐藤 主税	産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門 /研究グループ長	水中のサンプルを多色観察できる走査電子顕微鏡システムの開発	1,100
4. 菅野 公二	神戸大学 大学院工学研究科 /准教授	DNAエピゲノム解析に向けた1分子表面増強ラマン分光技術	1,500
5. 西原 禎文	広島大学 大学院理学研究科 /准教授	単分子強誘電素子の開発	900
6. 藤田 恭久	島根大学 総合理工学研究科 /教授	窒素ドーパ酸亜鉛ナノ粒子塗布型紫外線LEDの高性能化	1,400
7. 松田 修	九州大学 大学院理学研究院 /助教	樹木種子の高発芽率化技術に関する研究	1,100
8. 美川 務	理化学研究所 生命システム研究センター /専任研究員	無細胞DNA組換え系を用いた人工蛋白質創製技術の確立	1,500
9. 向井 剛輝	横浜国立大学 大学院工学研究院 /教授	メタマテリアルと量子ドットを用いた極小単一光子放出器の創出	1,000
10. 森 初果	東京大学 物性研究所 /教授	革新的有機プロト・エレクトロニクス材料およびデバイスの創製	1,400
11. 安田 琢麿	九州大学 稲盛フロンティア研究センター /教授	究極の電荷輸送機能を指向した革新的有機半導体パラダイムの創出	1,400
12. 山本 拓矢	北海道大学 大学院工学研究院 /准教授	環状高分子を利用した新奇刺激応答型DDS材料の開発	800
13. 米澤 徹	北海道大学 大学院工学研究院 /教授	金属糊を用いた還元ガスを不要とする革新的銅接合材料	1,400

研究助成プログラム「理想の追求」

(所属機関・職位は採択時のもの 50音順)

氏名	所属機関/職位	研究テーマ	助成金額(万円)
1. 芦苺 基行	名古屋大学 生物機能開発利用研究センター /教授	食糧問題軽減を目指したイネの分子育種と特性評価	2,500
2. 栗原 新	石川県立大学 生物資源環境学部 /寄附講座 准教授	食品成分の腸内細菌変換による健康増進効果の遺伝学的解析	1,700
3. 後藤 貴文	九州大学 大学院農学研究院 /准教授	牛肉生産システムの大構造改革:科学と国土をフル活用した大革新	2,300
4. 辻 寛之	横浜市立大学 木原生物学研究所 /講師	フロリゲンを活用して地球温暖化に強い作物を創るための基礎研究	1,700

採択実績推移

採択実績

平成21年5月より2つの研究助成プログラムを設定し、研究助成公募を開始しました。
これまでに8回の研究公募を行い、計129件が採択されました。

採択実績

	「理想の追求」		「産業基盤の創生」	
	応募数	採択数	応募数	採択数
第1回募集	76件	3件	245件	13件
第2回募集	87件	4件	304件	12件
第3回募集	62件	4件	358件	13件
第4回募集	65件	3件	323件	13件
第5回募集	77件	4件	399件	13件
第6回募集	128件	3件	376件	12件
第7回募集	128件	4件	420件	13件
第8回募集	159件	3件	609件	12件

会計報告

正味財産増減計算書

正味財産増減計算書

(単位:円)

平成29年1月1日から平成29年12月31日まで

科目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
経常収益計	368,813,595	356,162,679	12,650,916
(2) 経常費用			
① 事業費	270,292,185	265,900,501	4,391,684
② 管理費	90,209,441	78,656,385	11,553,056
経常費用計	360,501,626	344,556,886	15,944,740
当期経常増減額	8,311,969	11,605,793	△ 3,293,824
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	-	-	-
(2) 経常外費用			
経常外費用計	1	-	1
当期経常外増減額	△ 1	-	△ 1
当期一般正味財産増減額	8,311,968	11,605,793	△ 3,293,825
一般正味財産期首残高	100,734,910	89,129,117	11,605,793
一般正味財産期末残高	109,046,878	100,734,910	8,311,968
II. 指定正味財産増減の部			
① 基本財産運用益	100,028	6,248,351	△ 6,148,323
② 一般正味財産への振替額	△ 100,028	△ 1,043,445	943,417
当期指定正味財産増減額	-	5,204,906	△ 5,204,906
指定正味財産期首残高	1,000,288,762	995,083,856	5,204,906
指定正味財産期末残高	1,000,288,762	1,000,288,762	-
III. 正味財産期末残高	1,109,335,640	1,101,023,672	8,311,968

貸借対照表

貸借対照表

(単位:円)

平成 29 年12月31日現在

科目	当年度	前年度	増減
I.資産の部			
1. 流動資産			
流動資産合計	256,004,629	239,228,745	16,775,884
2. 固定資産			
(1)基本財産			
基本財産合計	1,000,288,762	1,000,288,762	-
(2)その他固定資産			
その他固定資産合計	910,915	1,143,141	△232,226
固定資産合計	1,001,199,677	1,001,431,903	△232,226
資産合計	1,257,204,306	1,240,660,648	16,543,658
II.負債の部			
1. 流動負債			
流動負債合計	147,868,666	139,636,976	8,231,690
負債合計	147,868,666	139,636,976	8,231,690
III.正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	1,000,288,762	1,000,288,762	-
(うち基本財産への充当額)	(1,000,288,762)	(1,000,288,762)	-
2. 一般正味財産	109,046,878	100,734,910	8,311,968
正味財産合計	1,109,335,640	1,101,023,672	8,311,968
負債および正味財産合計	1,257,204,306	1,240,660,648	16,543,658

キヤノン財団 概要

設立趣意

設立趣意

キヤノンは、「国産の高級カメラをつくろう」という大きな志を抱いた若者により1937年に企業としての歩みを始めました。その進取の気性の精神は今日まで受け継がれ、技術で人類の幸福に貢献し続ける企業を目指して発展してまいりました。

キヤノンはこれまでも、人々の生活を豊かにする製品やサービスを提供するとともに、さまざまな分野で社会・文化支援活動を展開してまいりました。この度、これらの活動に加えて、より一層社会に対し恩返しをしたいという強い気持ちから、創業70周年を記念し、キヤノン財団を設立することといたしました。

現在、情報通信を始めとする技術革新により、急速な経済のグローバル化、情報のネットワーク化が実現され、我々の生活はこれまでになく豊かになりました。しかし、その一方で、環境問題、資源問題など、国・地域の境界を越えた人類共通の深刻な課題に直面しています。

これら諸問題の解決には、国家レベルの対応のみならず、人類が幅広く英知を結集し、多面的な取り組みを行い、積極的にその役割を担うことが重要です。とりわけ、科学技術には、人類が直面する諸問題の解決に大きく寄与することが求められています。

キヤノン財団は、時代の要請に従い、科学技術をはじめとするさまざまな学術および文化の研究、事業、教育を行う団体・個人に対し幅広い支援を行い、人類社会の持続的な繁栄と人類の幸福に貢献していきたいと念じております。

2008年12月1日



設立者
キヤノン株式会社 代表取締役会長

御手洗富士夫

ビジョン

キヤノン財団は科学技術の振興と理想社会の追求によって、
人類の幸福と社会の繁栄に貢献します。

ミッション

科学的な知識や新しい技術は、20世紀から21世紀を通して、人類に幸福をもたらす社会の繁栄に大いに貢献してきました。これからの世界も、紆余曲折はありながらも、科学技術の発展と共に進化していきます。キヤノン(株)はお陰様で、創業79周年を迎え、科学技術の発展とともに順調に業績を伸ばしてまいりました。創業70周年を記念して、少しでも社会に恩返しする目的で、科学技術分野の研究を支援することを目的に、この財団を設立いたしました。本来、研究開発の助成は国の大きな任務ですが、キヤノン財団では、国の支援から漏れた、しかしとても優れた研究者を発掘しその研究を支援していきます。

プログラムは二つあります。第一は「産業基盤の創生」で自然科学分野の長期的研究から「イノベーション」を惹起し、新産業のネタになるような研究を支援します。あまり研究実績がなくともその発想が極めて優れており、その成果が社会に大きなインパクトを与えるようなテーマを優先的に取り上げます。比較的研究歴の短い研究者でも、高いゴールを掲げて挑戦的な研究をしたい方は歓迎です。また中央集権的な日本の社会構造を打ち破るような、地方を活性化するようなテーマも優先します。分野は特に限定しませんが、21世紀はやはり情報科学・技術とライフ・バイオサイエンスから大きなイノベーションが生まれるでしょう。

第二のプログラムは「理想の追求」です。この現実社会を少しでも人々の描く「理想」に近づけるような「キーワード」をこちらから選定し、その中から新しい発想のテーマを見出し人々に夢を与えるような研究を助成します。最初の5年間は「海」をテーマに助成し、現在は「食」をテーマに研究を支援しています。社会に夢を与え、理想に近づけるための高いゴールを設定し、様々な視点から分野横断的に複数の研究者がチームを組んでアプローチして頂くようお願いしています。この助成の特長は上記の点以外にも、助成件数を絞り一件当たりの研究費をできるだけ大きくとること、厳密な審査を行います。研究のフォローアップを専門の審査員の先生が行ってくれる事などがあります。

2016年12月26日



理事長

生野 俊明

概要

名称	一般財団法人キヤノン財団
設立	2008年12月1日
基本財産	10億円
所在地	〒146-8501 東京都大田区下丸子3-30-2
Tel.	03-3757-6573
Fax	03-3757-0674
URL	http://www.canon-foundation.jp

目的

当財団は、科学技術をはじめとする幅広い学術及び文化の領域における研究、事業、教育等に対して助成・支援を行うことによって、学術および文化の振興発展を図り、もって広く国民生活の向上と人類社会の繁栄に貢献することを目的とします。

沿革

キヤノンは創業70周年を記念し、2008年にキヤノン財団を設立。人類の英知を深め永続的な繁栄を目指す、科学技術を核とした総合的な研究プロジェクトに対して助成を行っています。

1. 研究プログラム「産業基盤の創生」
2. 研究プログラム「理想の追求」

助成対象

国内の大学および大学院（附属機関を含む）、大学共同利用機関、高等専門学校、その他公的研究機関等の何れかに勤務し、当該機関で実質的に研究できる方。助成期間中に日本国内に居住している方が対象になりますが、申請者の国籍は問いません。

評議員・理事・監事 一覧

評議員

(平成29年4月1日現在・50音順)

役職	氏名	現職
評議員会議長	御手洗 富士夫	キヤノン株式会社 代表取締役会長 CEO
評議員	岩沙 弘道	三井不動産株式会社 代表取締役会長
評議員	奥田 碩	トヨタ自動車株式会社 相談役
評議員	広瀬 勝貞	大分県 知事
評議員	吉川 弘之	国立研究開発法人科学技術振興機構 特別顧問

理事・監事

(平成29年4月1日現在・50音順)

役職	氏名	現職
理事長	生駒 俊明	キヤノン株式会社 特別顧問／東京大学名誉教授
常務理事	近藤 智	(常勤)兼 事務局長
理事	安西 祐一郎	独立行政法人日本学術振興会 理事長 慶應義塾大学名誉教授・前塾長
理事	伊賀 健一	東京工業大学名誉教授・前学長
理事	坂内 正夫	国立研究開発法人情報通信研究機構 理事長／東京大学名誉教授
理事	木村 彰良	キヤノン株式会社 常務執行役員
理事	野村 吉三郎	ANAホールディングス株式会社 名誉顧問
理事	前田 晃伸	みずほフィナンシャルグループ 名誉顧問
理事	渡 文明	JXホールディングス株式会社 名誉顧問
監事	大江 忠	弁護士